

FILE\_  
RENOVATION\_  
KOBE\_  
NAGATA

FILE\_RENOVATION\_KOBE\_NAGATA



ファイル\_リノベーション\_コウベ\_ナガタ

ファイル\_  
リノベーション\_  
コウベ\_  
ナガタ

つながる  
ひろがる  
長田のまちの  
空き家とリノベ

熱狂的な拡大を続けた戦後の開発から長い時を経て、空き家が点在するようになった神戸のまち。

時代は移ろい、今、その静かな箱の中に、新たな暮らしが芽吹きはじめている。再び息づきはじめた建物と、そこに宿る日常。場にめぐる想いをうつした一冊の記録。



FILE\_  
RENOVATION\_  
KOBE\_  
NAGATA

ファイル\_  
リノベーション\_  
コウベ\_  
ナガタ

Tenjin - cho  
Stock &  
Store

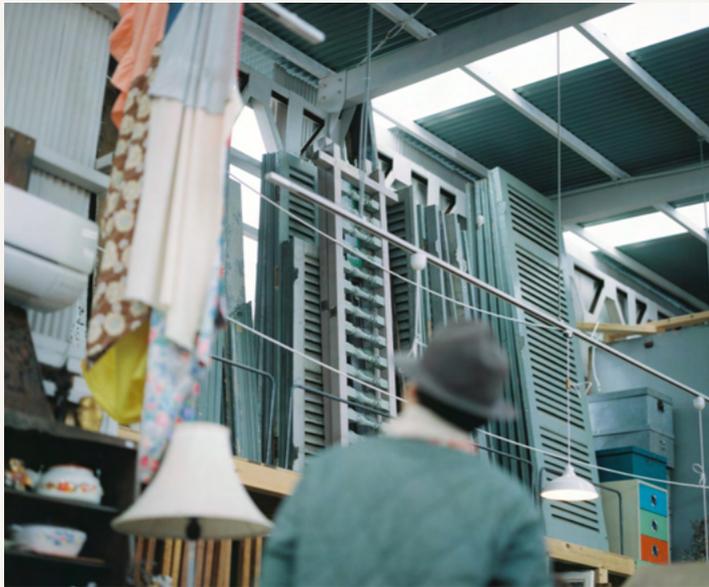
天神町  
Stock &  
Store



所在地：神戸市長田区長田天神町5-2-8  
 構造：鉄骨造3階建て  
 用途：家具・古材販売＋イベントスペース＋シェア工房  
 設計：ものがたり工作所  
 施工：建築業 萬代  
 運営：ものがたり工作所

Location：5-2-8 Nagata Tenjin-cho, Nagata-ku, Kobe  
 Structure：Steel 3 - story  
 Building use：Upcycle shop + Event space + Shared factory  
 Architecture：Story Factory  
 Construction：Mandai Construction  
 Management：Story Factory





ここは長田天神町。うねる道を進み、家々を分け入ると、坂の上にそびえ立つ青緑の大きな建物が見えてくる。天神町Stock&Storeだ。

かつて自動車整備工場だったこの場所は、今、シェア工房やイベントスペースが隣接するアップサイクルのショップとして運営されている。

「リノベーションを続けているとモノがたくさん出てくるようになり、それぞれのおもしろさを感じるにつれ、次第にそのモノが捨てられなくなっていったんです。なんとかできないかなと。」ただ捨ててしまうには、あまりに惜しい。今ではなかなか目にかかれないモノや、刻まれた「ものがたり」を、ここで終わらせたくない――。この建物が生まれたのは、ものがたり工作所の所長である小畦さんのそんな思いからだった。

ものがたり工作所は、お施主さんとDIYで建物を仕上げるなど「ともにつくる」ことが特徴。設計者と、施主と、大工とが目線をあわせ、小さなことからでも、その建物やものにまつわる「ものがたり」にみんなで関わろうというスタイルだ。ここは、そんなものづくりを支える拠点。単なる古物・古材の販売にとどまらず、リメイクのアイデアや活用方法をめぐって、日々対話が交わされている。

この日は元町で新たに店を構える親子が内装を考えるべく、建物を訪れた。「こんなカタチで活かせるかもしれない」「ここでならこんなものがつくれるかもしれない」会話の中で、いつしかそんな言葉が聞こえ始める。役目を終えたと思われたものたちが、新たな持ち主の想像力と触れ合い、再びゆっくりと鼓動を始める。それは、閉ざされていた物語に、新しいページが綴じられるような、かけがえのない瞬間だった。





ゆるりとした 2025  
2025.6.3(水)  
14:00-18:00  
一件落着

2025.6.3

REX

Citylight  
The Home of  
Maruyama

まちの  
あかり  
丸山の家



所在地：神戸市長田区丸山町1-7-1  
構造：木造2階建て  
用途：ギャラリー・イベントスペース  
設計：ものがたり工作所  
施工：建築業 萬代  
運営：社会福祉法人シティライト

Location : 1-7-1 Maruyama-cho, Nagata-ku, Kobe  
Structure : wooden 2 - story  
Building use : Gallery + Event space  
Architecture : Story Factory  
Construction : Mandai Construction  
Management : Social Welfare Corporation Citylights





丸山のとある街角。一軒の古民家に植えられた大きな山茶花が、道ゆく人を優しく迎える。

「まちのあかり丸山の家」と名付けられたこの場所は、社会福祉法人シティライトが運営を担い、「ものがたり工作所」小睦さんが設計を手がけた。建物は、ギャラリーやイベントで利用される一方、有志の人たちによる喫茶なども行われている。ときには、まちの人たちがごはんを持ち寄り、集うことも。

「どんな場所にしたいか、私の口から出てくるのを待ってくれたんです。」山田さんは当時の設計をそう振り返る。まちあかりのような場をつくりたい——。そんな思いをこめて、かつての意匠や地蔵などを残しながら、改修が行われた。

施工はもちろん、ものがたり工作所らしい「ともにつくる」スタイル。山田さんも一人の参加者として場づくりに携わった。「DIYで建物に関わったことで自分たちの場だという実感がありますね。DIYで関わってくれた方もなにかあったらここに来たいと言ってくれます。来ていいと思える場所になる要素だったと思う。」地蔵盆などの行事で、地域の人々が集う拠り所となっていたという、この場所。「建物や、地蔵を残してくれてありがとう」施工後には、地域の方からそんな言葉が届いた。

今、この場所に流れる空気に惹かれ、定期的にカフェを開いてまちと人をつなごうとしている丸山出身の有友さん。「Uターンで帰ってきて人と出会わないことが増えた。色々な人と自分ごととしてまちを捉えられるようになっていきたい。」

梅の木につぼみがつき始めた初春の昼下がり、とある親子がコーヒーを飲みを訪れた。じわじわと立ち上がる香りにつられ男の子が台所へ近づくと、有友さんから一言「淹れてみる?」。たやさぬようにと紡がれたまちあかりは、人々の暮らしをあたたく包んでいる。



丸山の家スタッフ 有友強さん 運営 社会福祉法人シティライト 山田弥生さん



Trimming  
Salon  
COPAIN

トリミング  
サロン  
コパン



所在地：神戸市長田区西尻池町1-3-2 2  
構造：木造2階建て  
用途：トリミングサロン+カフェ  
設計：ものがたり事務所  
施工：アベリア・エンジニアリング  
運営：岡本薫

Location : 1-3-22 Nishishirike-cho, Nagata-ku, Kobe  
Structure : wooden 2 - story  
Building use : Trimmingsalon + Cafe  
Architecture : Story Factory  
Construction : Abelia Engineering  
Management : Kaoru Okamoto





JR新長田駅より東向きへ歩いて5分ほど。トリミングサロンコパンを尋ねると、運営者の岡本さんとここでカフェを開いている桐本さんが出迎えてくれた。

もともと住宅街にある自宅の一部で活動していたという岡本さん。店舗としてより独立した場所を探していく中で、長田のまちで当時空き家となっていたこの建物と出会った。当初、空き家活用は全く念頭になかった。しかし、知人から空き家問題やリノベーションの話聞くうちに、目の前の古い建物が単なる空き家ではなく、可能性を秘めた場所に映り始めた。「自分自身の手で再生にトライしながら、理想とする『職住一体』の暮らしが実現できるかもしれない」。その後、「下町startup」への参加を通じて、建築家の小畦さんを紹介していただき、建物の改修を依頼することに。

「コンセプトとか、こんなお客さんに来てほしいとか、相談がしやすかったです。おかげで当時の喫茶の雰囲気を活かしていただきました。DIYで色んな人が関わってくれたことやその場所を感じながら生活するのもすごくいいことだなと思います。」対話や体験を重ねていく小畦さんならではの設計だ。店内を見渡せば、シャンデリアやアーチを描く古い窓。かつてここにあった生活と、新たに生まれた日々の営みが重なり合い、人肌のぬくもりを感じるような、そんなおだやかな空気が満ちている。

「今までのサロンだとゆっくり待つことができなくて、うちの子も震えていたりしていたんです。ここならガラス越しに見ながらゆっくりすることができるので安心です。」お客さんとして来ていた、島田さんが、こんなことを語ってくれた。人だけでなく、犬も安心できる空間。古くから「喫茶シスター」として愛され、そして新たな形で今も生き続けるあたたかい空間が来る人たちをつつむ。ふとそばに目を向けると、一匹の犬が安心したようすでぐっすりとお眠っていた。



運営 トリミングサロン店主 岡本薫さん カフェ店主 桐本マチコさん



保護犬募金箱

NEO Nagura Market

NEO 名倉市場



所在地：神戸市長田区名倉町4-3-9

構造：木造2建て

用途：バー+ギャラリー+イベントスペース+住居

設計：合同会社廃屋

施工：合同会社廃屋

運営：合同会社廃屋

Location：4-3-9 Nagura-cho, Nagata-ku, Kobe

Structure：wooden 2-story

Building use：Bar + Gallery + Event space + Residence

Architecture：Haioku Group

Construction：Haioku Group

Management：Haioku Group





薄日差すアーケード。古びた看板に、今や忘れ去られつつある「ブティック」の文字。長田区名倉町の住宅街を歩けば、突如として、家々の隙間を縫うような古い市場が現れる。

1936年に創立された名倉市場。かつては20もの店が軒を連ねていた。アーケードの下にはびっしりとシャッターがおろされ、今や人通りのなくなってしまった商店街だが、足を踏み入れるや否や、鉄骨のフレームが飛び出す風変わりな窓や設えられたばかりの大きな吊戸が見えてくる。

ここを新たに引き継いだのは合同会社廃屋の西村さん。「まちをハックして、みんなでなんとなくその場を共有していくような、この場所全体でそういう空間がつかれないかなと思っています。」

1階部分、かつて商店が並んだミセの空間はギャラリーとなっており、持田敦子さんの作品が吹き抜けまで組み上がる。2階には居室があり、滞在をすることも可能だ。市場入口には、カウンターとアイアンのフレームが構えるバーの空間。その名も「名倉市バー」。廃れた姿を、単なる「終わり」と捉えるのではない。それもまた自然の摂理、一つの循環のプロセスとして受け入れ、あえてその渦中に新たな場をひらく――。日々ものが大量につくられては、すてられていく現代。効率や新しさばかりが求められる中で、愛をもって人とモノとの関係を紡ぎ直そうとするこの試みは、廃屋グループならではの「再生」の形だ。

この日は、廃屋の可能性を探求する「廃屋大学」の会場として、多くの学生や社会人が訪れた。淡い日差しが際立つ暗がりのアーケードの中、新たな暮らしが、そのシャッターを一つずつ開こうとしている。





Dainichi HARBOR  
at the foot  
of the bridge

橋のたもとの  
喫茶店  
大日HARBOR



所在地：神戸市長田区榎川町1-14-7  
 構造：木造1階建て  
 用途：喫茶スペース  
 設計：上野天陽+ものがたり工作室  
 施工：合同会社廃屋  
 運営：上野天陽+旧大日温泉

Location : 1-14-7 Hikawa-cho, Nagata-ku, Kobe  
 Structure : wooden 1 - story  
 Building use : Coffee space  
 Architecture : Takaharu Ueno + Story Factory  
 Construction : Haioku group  
 Management : Takaharu Ueno + Dainichi Onsen





冬の寒空の下、ぐるりと山に囲まれた丸山のまちの一角から珈琲の香りが立ちのぼり、港へ船をつけるようにしてひとり、またひとりとお客さんが訪れる。

かつて旧大日温泉に併設されたわずか10畳ほどの小さなランドリースペース。この場所を新たに引き継ぎ、自ら設計してシェア型の喫茶店へと生まれ変わらせたのは上野天陽さん。ある日はごはんとおしる、またある日はプレートランチやモーニングと、日ごとに店主を入れ替え、それぞれが運営を行っている。

「まちになにがほしいってなったときに話を聞いてたら、近所の人々が求めているのは、ごはんを食べるところがないとか、立ち寄れるところがないっていうのがベースにあって。じゃあこの路面につくるなら、喫茶店をやろうって。」

上野さんの設計は、建築の枠組みを軽やかに広げる。それは畑づくりから壁塗り、はたまた穴掘りにいたるまで、あらゆるプロセスを場づくりに取り込み、周囲を巻き込みながら形にしていくのが特徴だ。この喫茶店もまた、地域のひととの協働によるもの。トイレの扉を開けると、参加者とともに素手で塗り重ねた丸山の土が部屋中に広がる。渦巻くような質感は、まるでゴッホの《星月夜》。こうして手仕事あふれる喫茶店が、丸山の一角に顔をあらわした。

この日、大きなギターケースを担いで通りがかりにふらりと訪れたまちの住人である津村さん。「丸山は人も少なくなってきた、どんどんさびれていく感じで。あそここの店もなくなって、みんなそのまま素通りでしょ。だからまずは音楽でね。」そういって留め金を外し、おもむろに取り出したクラシックギター。たちまち店内に異国情緒あふれる旋律が漂い、そのうちに、まちの人たちが次々と顔をのぞかせた。丸山のまちに生まれたこの小さな喫茶店は、もやいを結ぶように、人と人とを、たしかにつなぎはじめている。





建築家/  
設計事務所に  
設計を頼むこと

## 0 建築家・設計事務所 1 に頼むのは 高いとは限らない…？

ハウスメーカーでは、基本的に設計から施工、アフターサービスまで、すべての工程を自社・グループ会社で完結させる設計施工一貫の方式を取っています。その一方で、設計事務所は図面を基に施工会社から見積りを取り、内容を検証して施工を行う分離発注の形式。費用が合わない場合には全体の予算に合わせて、設計を考えていくことも可能です。リノベーションは、設計から使い方までアイデアが試されるもの。全体を通してみれば、設計事務所をお願いすることでコストが低くなる可能性もあります。

## 0 スピードの 2 ハウスメーカー 自由度の設計事務所

ハウスメーカーの大きなメリットはなんといってもその「スピード感」。素材やプラン、構法など自社での規格を持っていることでスムーズに竣工まで届けてくれることが、大きな利点だと言えます。しかし、それぞれの会社での規格やルールの範囲で設計・施工を行うため、材料や建て方に制約が出てしまうことも。一方で設計事務所では、その制約をゼロにして考えることがポイント。条件がさまざまなリノベーションでは真価が発揮される場面がたくさんあります。中には、ただつくるだけではないさまざまな取り組みも。

建築家や設計事務所に頼むのはお金がかかりそう、風変わりな奇抜なものをつくるイメージがある、and etc…。

一世一代の大切な決断をするのに、それだけではもったいない。

お店や住宅など、建物の設計をお願いする前に少し知っておきたい、建築家や設計事務所に設計をお願いするということ。

建築家/  
設計事務所の  
さまざまな  
スタイル

### example 01 ともにつくる

建物をつくる中でたくさんの人に関わってもらいたい、使う人たちとみんなで作っていききたい。建物を、ともにつくるということ。



### example 02 使われ方から 考える

建物の用途や意匠、つくり方から運営まで。建物にまつわるものごとをそれぞれ場づくりのひとつとして、ともに考えるということ。



### example 03 身の回りの ものを使う

古材や廃材、はたまた敷地でとれた土や、近所の竹など。身の回りにあるものを材料として活用し、まちと建物に関わるということ。



house  
next  
door

ハウス  
ネクスト  
ドア



所在地：神戸市長田区二葉町3-12-4

Location : 3-12-4 Futaba-cho, Nagata-ku, Kobe

構造：木造2階建て

Structure : wooden 2 - story

用途：パフォーマンススペース＋ミーティングスペース

Building use : Performance space + Meeting space

設計：合同会社こと・デザイン

Architecture : cotodesign

施工：松尾進＋松尾進矢＋人見正美

Construction : Susumu Matsuo + Shinya Matsuo + Masami Hitomi

運営：中間アヤカ

Management : Ayaka Nakama



大きなハートのオブジェが目を引き本町筋商店街から、丸五市場へと続く細い路地へ。古い長屋が軒を連ねるその一角に、一軒のダンススタジオがある。

2軒の長屋を改修生まれたこの建物は、運営者の中間さんによって「house next door」と名付けられた。「スタジオを持ちたいではじめたことだったけど、そもそも家なんだよなあっていう。長屋とか路地がつながっていて、人が暮らす場所っていうことを忘れない場づくりができたらなって。ただのダンススタジオじゃなくて、地域にとってオープンな場所。」建物の入り口には、土間が広がり、路地の空気感は遮られることなく、じんわりと奥へ引き込まれていく。見渡せばキラッと光るフェンスに、境界を曖昧にするように置かれた建具とベンチ。スタジオらしい広々とした空間かと思えば、ところどころに襖や畳も、干された布団も見える。建物の中なのか、外なのか。はたまたスタジオなのか、家なのか。そのあわいで、まちの日常とパフォーマンスが重なりあっている。

設計を手がけたのはこと・デザインの角野さん。おもむろに口を開き、こう続けた。「建物っていうのは、僕の作品ではなくて、建築を立ち上げる建築主の作品やと思うんです。なのでデザインした環境を使いこなしてくれているのを見ると本当にうれしくて、『こう使わなければダメ』ではなくて、使い倒していきいきとしている、どういう風につかってもそれが包含できる自由さをデザインできたら、『できたんじゃないか』っておもいますよね。」

建具を開け放している、近所の方がベンチに腰を下ろし、世間話がはじまった。階段には、うずくまりながら、ダンスを見守っている子どもの姿。どうやら今日は習い事に行きたくないらしい。まちに開かれたダンススタジオでは、第2の家に帰るように今日も人々が訪れる。





JOB・  
SPACE・  
RABO

ジョブ・  
スペース・  
ラボ



所在地：神戸市長田区駒ケ林町1-8-5  
 構造：木造2階建て  
 用途：カフェ+ギャラリー+アトリエ  
 設計：合同会社こと・デザイン  
 施工：株式会社アイテック/松尾進矢  
 運営：NPO法人芸法

Location : 1-8-5 Komagabayashi-cho, Nagata-ku, Kobe  
 Structure : wooden 2 - story  
 Building use : Cafe + Gallery + Atelier  
 Architecture : cotodesign  
 Construction : ITEC Corporation / Shinya Matsuo  
 Management : NPO Geiho





新長田の駅から港へとまっすぐ続く一本道、大正筋商店街を南へ下る。高松線を越えたあたりから潮の香りがふわりと混じり始め、その大きな通りのすぐそばに「ジョブ・スペース・ラボ」が姿をあらわす。

滞在し、制作し、発表する。そのすべてが一同に行えるこの場所を運営するのは、NPO法人芸法の小國さん。建築士の角野さんと共に自身が実行委員長として関わる「下町芸術祭」の新たな場を探し求めていた矢先、この建物と出会った。「新たに活用できないだろうか。」そんなことを建物の前で話していたその時、たまたま通りがかったまちづくり協議会の会長から所有者の方を紹介していただき、あれよあれよと改修がはじまった。

「角野さんと一緒にやってよかったと思ったのは、なににより地域と寄り添う姿勢ですね。アートへの理解はもちろん、まちの状況も含め、空間づくりではなく『場づくり』をしていただけたのがすごくよかったです。」

1階は、カフェやアート向けのギャラリー、アトリエ。2階部分はクリエイター向けのアトリエ空間が備わっている。じんわりと光指す西側の壁には、内向きに設えられたトタンや手すり。外壁に目をやれば壁がけの時計や額縁がみえる。この屋内外がひらりと反転したかのようなつくりは、かつて下町芸術祭で展示された作品の一つ。そのまま建物の意匠として息づき、この場所独自の風景を形づくっている。

「人と会ったり、なにかに触れられたり、素直に怒ったり。予定調和じゃないことから生まれる表現がある。」まちなかに表現の場を開くということ。それこそが、この場所が持つ何よりの醍醐味だ。潮風が吹き抜ける駒ヶ林の路地で、次はどんな物語が生まれるだろうか。その幕が上がるのを、この建物は静かに見守っている。





Marugo  
Spice  
Up

丸五  
Spice  
Up



所在地：神戸市長田区二葉町3-11-2  
構造：木造2階建て  
用途：カフェ・バー＋ギャラリー  
設計：株式会社福永工務店 はちふく  
施工：合同会社r3  
運営：株式会社Happy

Location : 3-11-2 Futaba-cho, Nagata-ku, Kobe  
Structure : Wooden 2 - story  
Building use : Cafe/Bar + Gallery  
Architecture : Hachifuku, Fukunaga Construction Co., Ltd.  
Construction : r3 LLC  
Management : Happy Co., Ltd.



JR新長田駅から南へ歩くこと約10分。西神戸センター街を抜けた先、それまでの広々としたアーケードの光景とは一変し、人がちよど行き交えるほどの細い市場が現れる。店々がひしめき合うここ、丸五市場の濃密な空気の中に溶け込むように「丸五SpiceUp」はある。

ここは、不定期に開かれるバー。かつて魚屋が営まれていた長屋の様相がありありと露出し、モルタルで塗られたカウンターなど、新しい内装が溶け込むように絡み合っている。二階は、当時の趣そのままに活かされたギャラリーの空間。建具を両側に引けば、破れかぶれの障子や床の間の跡が顔を出す。

設計を手がけたのは、株式会社福永工務店はちふくの福永さん。「私にとって設計することは、人の思いを汲み取って、表すこと。DIYが好きな人ならDIYを取り入れてみたり、その人がやってみたいことを一緒にやりながら、道筋を整えてあげること。伴奏することが役目だと思っています。丸五SpiceUpでは、古い建物の良さや、ごちゃっとしながらもそこに暮らしがあるその『カオスさ』を大切にしました。」この場づくりには、運営を担う「株式会社Happy」の就労支援メンバーも参加。シャッターが増えつつある丸五市場に新たな場をみんなで開いた。

15時を少し過ぎたころ、開店前のシャッターが開き、突如としてアバンギャルドな三人組があらわれた。どうやら長田で活動するダンサーたちがこの日結成したというダンスユニットらしい。耳もとで揺れる「幸」と「福」の飾り。すぐさまカウンターからビールが提供され、話が弾む。誰も驚く様子はない。この不思議な巡り合わせすらもひとつの「日常」だと言える、そんな空間が丸五市場にはあった。





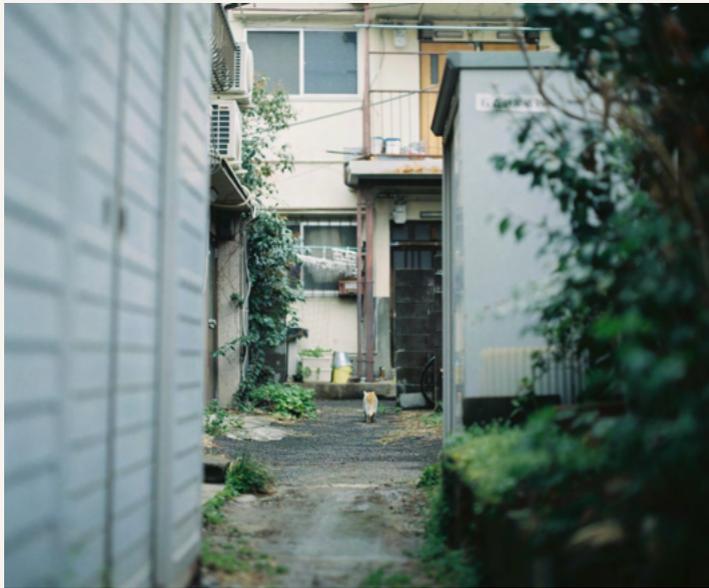
The Home  
of  
KOMADORI

こまどりの  
の  
家



所在地：神戸市長田区駒ヶ林町1-3-12  
構造：木造2階建て  
用途：複合用途建物+オフィス+工房+ギャラリー  
設計：高橋建築事務所+文化工学研究所  
施工：ながお工建株式会社  
運営：高橋建築事務所

Location：1-3-12 Komagabayashi-cho, Nagata-ku, Kobe  
Structure：wooden 2-story  
Building use：Shared house + Office + Workshop + Gallery  
Architecture：Takahashi architecture + Bunka Engineering  
Construction：Nagao Kouken Co., Ltd.  
Management：Takahashi architecture



長田区南部の海辺のまち、駒ヶ林の路地の中。ひときわ目をひく立派な門に「こまどりの家」の文字が見えてくる。

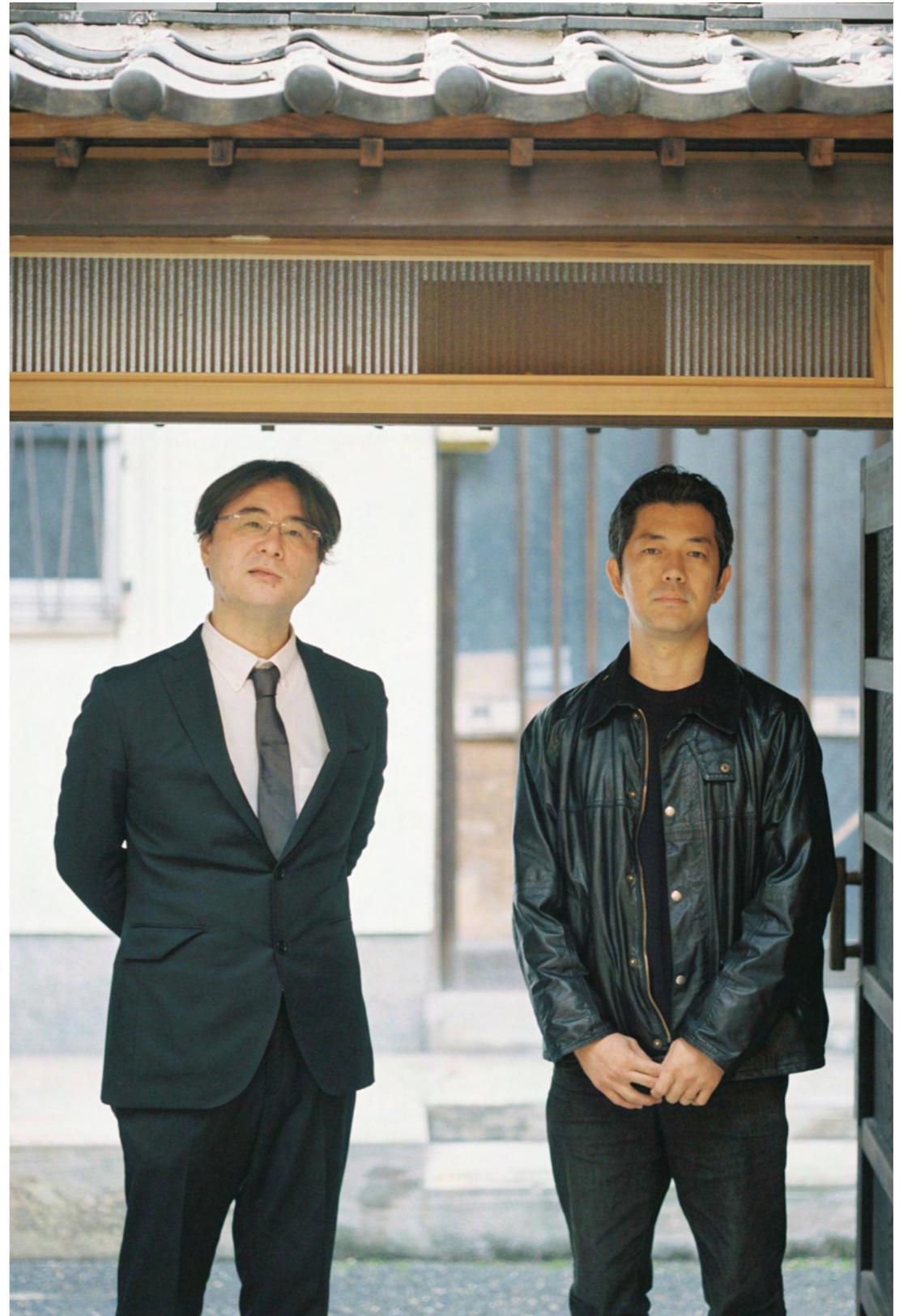
大正時代から残るこの建物。もともとは地域の方が集い、餅つき大会を行うなどまちの公民館のような場所だった。

そんな地域の場を引き継ぐような、にぎわいの場にしたいという思いで高橋さん、北川さんの協働のもと改修が行われ、当時使われていた名前をそのまま引き継いだ複合用途建物/オフィス/工房/ギャラリーのスペースが生まれた。

「長く建物をもたせることで、長く暮らしをつくることができる。この建物も基礎を強くしながら、構造用合板で周囲を囲い、頑丈なハコにすることで長く使える場をつくっています。建物の魅力を見つけて、活かす、そして残す。まちや建物、特に今あるものをおもしろいと思えることはすごく大事だと思います。おもしろいは、『生きる活力』だと思うんです。」「空き家改修に取り組む理由に、もったいない精神がありますね。ヨーロッパでは『ヴィンテージがラグジュアリーになる』という考え方があって、それに影響を受けて活動しているところがあります。」古民家・伝統木造建築物などの構造設計に強い高橋さんと、イタリア仕込みの経験を糧に、資源を丁寧に読み解く北川さん。まさしく「文化」と「工学」を振り子のように行き来してできたこの建物について、2人がそんな思いを語ってくれた。

地域の場として再びまちに開かれたこまどりの家。現在、地域貢献を志すラジオ局が入居し、イベントの企画や情報発信を行っている。入り組んだ路地に潮風そよぐ駒ヶ林のまちの中、一つのヴィンテージが確かな風格を湛え、新たな輝きを放っている。

## ケース09 こまどりの家





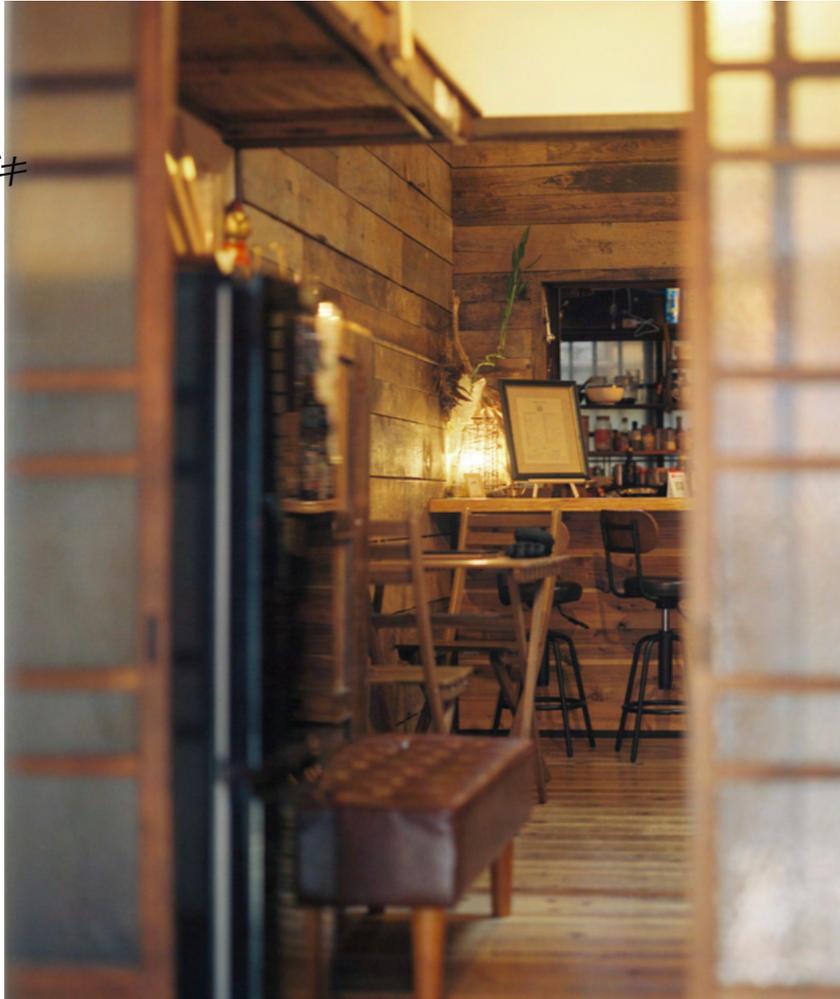
何となく  
道路空間  
個性が  
中と



文化  
大家  
未定  
柱

cafe &  
bar  
SAKAZUKI

カフェ  
バー  
サカヅキ



所在地：神戸市長田区二葉町2-4-8  
構造：木造2階建て  
用途：カフェ・バー  
設計：むく建築  
施工：むく建築  
運営：株式会社サカヅキプロダクション

Location : 2-4-8 Futaba-cho, Nagata-ku, Kobe  
Structure : wooden 2 - story  
Building use : Cafe + Bar  
Architecture : Muku architecture  
Construction : Muku architecture  
Management : SAKAZUKI Production



本町筋商店街を下る途中、わきにある路地のほうから、はじめたばかりというなだたどしいサッカーボールの音と泣きじゃくる子どもの声が聞こえた。ほどなくしてガラガラと扉が音をたて、子どもをあやしに出てきた男性の背後には、年季の入った木の壁と、ずらりと並ぶ酒瓶。一見、普通の長屋に見えるこの場所こそがカフェバーサカヅキだった。

ここを運営するのは池田浩基さん。設計と施工はむくデザイン・兄の恭基さんが手がけた。

かつて魚屋を営んでいた夫婦が生涯を過ごしたというこの長屋は二人の手でたちまち姿を変えた。「壁に張った床板も、最初は使う予定がなくて、外に並べて洗っていたら『もったいなくない?』『じゃあ壁に貼ろうか』ってなって。ライブ感で毎日動いてましたね。考えながらつくるって、やっぱり面白いですよ。」それはまるで、譜面を持たないジャムセッション。屋根裏のロフトやカウンターなど、その場のひらめきと掛け合いで、次々に空間を組み上げていった。

元々、林業の世界に身を置いてきたという恭基さん。いつしかその想いは、自らの手でつくることへ向かっていた。そんなある日、酔いに揺られ、偶然紛れ込んだ熊野古道。そこには、宮大工の手によって組み上げられつつある、剥き出しの家があった。深い森に響く槌音と手きざみの建築。――衝撃だった。その場で決めた、大工の道。これまでの自分を投げ打って、新たに門を叩いた。

「むく建築っていう名前は、木をやっぱり扱いたっていうことと、初心を忘れず、無垢な気持ちでやっていきたいというのがあって。」サカヅキでみせた即興の数々。あの日から始まったひたむきな情熱と、確かな技術がここにある。





(WORKS)

天神町 Srock & Store

まちのあかり丸山の家

トリミングサロン コパン

NEO 名倉市場

橋のたもとの喫茶店 大日HARBOR

house next door

ジョブ・スペース・ラボ

丸五SpiceUp

こまどりの家

カフェバーサカヅキ

(WORKS)

Tenjin - Cho Stock & Store

Citylight The Home of Maruyama

Trimming Salon COPAIN

NEO Nagura Market

Dainichi HARBOR at the foot of the bridge

house next door

JOB SPACE RABO

MarugoSpiceUp

The Home of KOMADORI

cafe & bar SAKAZUKI

(CREDIT)

企画  
長田区役所 地域協働課

デザイン・写真撮影・ライティング  
西谷聡汰 (umiyama design lab)

(CREDIT)

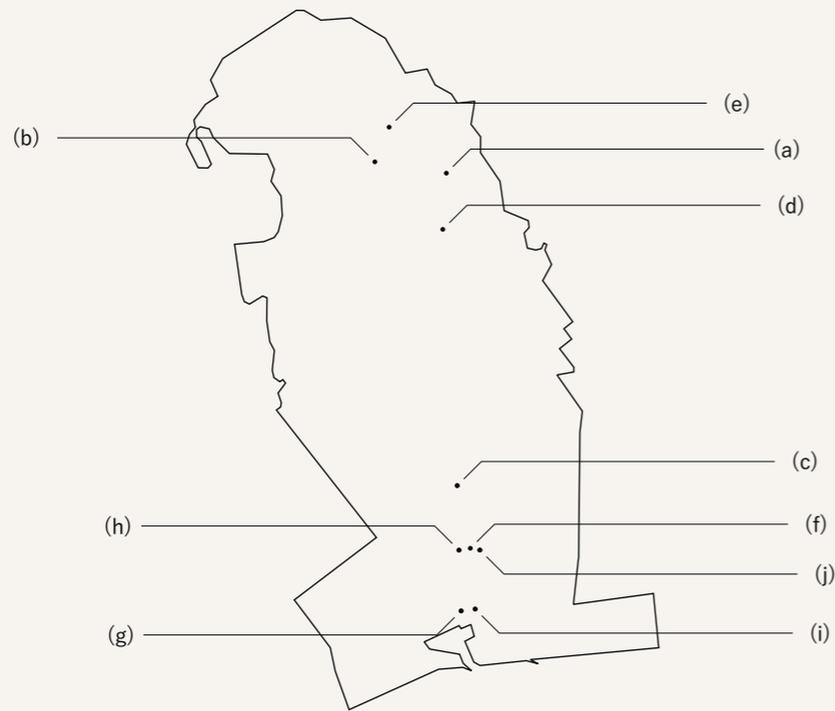
Planning  
Community Engagement Division, Nagata Ward Office

Design・Photography・Writing  
Sota Nishitani (umiyama design lab)



(マップ)

- (a) 天神町 Stock & Store 神戸市長田区長田天神町5-2-8
- (b) まちのあかり 丸山の家 神戸市長田区丸山町1-7-1
- (c) トリミングサロン コパン 神戸市長田区西尻池町1-3-2 2
- (d) NEO 名倉市場 神戸市長田区名倉町4-3-9
- (e) 橋のたもとの喫茶店 大日HARBOR 神戸市長田区檜川町1-1 4-7



- (f) house next door 神戸市長田区二葉町3-1 2-4
- (g) ジョブ・スペース・ラボ 神戸市長田区駒ヶ林町1-8-5
- (h) 丸五SpiceUp 神戸市長田区二葉町3-1 1-2
- (i) こまどりの家 神戸市長田区駒ヶ林町1-3-1 2
- (j) カフェバー サカヅキ 神戸市長田区二葉町2-4-8

(設計者)

設計者：ものがたり事務所 — (a)(b)(c)

お施主さんとDIYで仕上げるなど、ともにつくることが特徴。目線をあわせ、ものがたりにみんなで関わろうというスタイル。

設計者：合同会社廃屋 — (d)

廃れた姿も自然の摂理として、その循環の中であえて場をひらき、愛をもって人とモノとの関係を紡ぎ直そうという建築集団。

設計者：上野天陽 — (e)

畑づくりから壁塗り、はたまた穴掘りまであらゆるプロセスを場づくりに取り込み、周囲を巻き込みながら形にするのが特徴。

設計者：こと・デザイン — (f)(g)

場所や施主に合わせ素材を巧みに扱い、使い倒していくことで建物がいきいきするような自由さを感じるデザインが特徴。

設計者：株式会社福永工務店 はちふく — (h)

思いを汲み取って、表し、その人がやってみたいことを一緒にやりながら、道筋を整え、伴奏するような設計が特徴。

設計者：高橋建築事務所 — (i)

古民家や伝統木造などの構造設計に精通。長持ちする建物で長く暮らしを支え、豊かな文化を育むことを設計の核とする。

設計者：文化工学研究所 — (i)

工学的解析と文化的洞察を融合し、土地の記憶を読み解く。目に見えない環境を繋ぎ、場所の魅力を引き出す設計が特徴。

設計者：むくデザイン — (j)

林業から建築の世界へ。設計と施工をともに担い、木への「無垢」な情熱で、現場のひらめきを形にするのが特徴。

本誌は長田区HPからも閲覧可能です

